

令和5年度
 県南教育事務所重点施策に関する
 調査結果について

学校教育課通信
 令和6年3月14日(木)第197号
 編集・発行：県南教育事務所 笠原 聡美

令和5年度末の調査結果及び本年度の取組等から、県南域内の幼稚園・小・中学校の評価数値と共に、成果と課題を記載しました。自校の調査結果と比較しながらご覧いただき、次年度の学校経営に生かしていただきたいと思います。調査へのご協力ありがとうございました。(○成果 ▲課題 (今後に向けて))

1 資質・能力の育成と学力向上 (数値目標3.5) <small>※「資質・能力の育成と学力向上の取組についての調査」より関連するものを抜粋</small>			中間評価平均			最終評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校
(1) エビデンスに基づく授業改善	①	ふくしまの「授業スタンダード」に基づき、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業の工夫・改善に努めている。	/	3.5	3.3	/	3.6	3.6
	②	全国学力・学習状況調査結果の分析を受けて、自校の課題解決に向けた学習指導の充実・改善に取り組んでいる。(年間指導計画、日課表、週月案、学習指導案等への反映、校内研修計画の修正・改善・検証等)	/	3.3	3.2	/	3.4	3.4
	③	各種調査結果分析・検証の結果について、学校全体で共有し、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等においても校内研修に取り組む等して充実・改善を行っている。	/	3.3	3.1	/	3.4	3.3
(2) 資質・能力の育成を支える基盤づくりとカリキュラム・マネジメントの確立	④	授業改善の視点や授業周辺部の取組(家庭学習の方法等)について、共通理解を図る場を設定し、実施している。	/	3.6	3.4	/	3.7	3.6
	⑤	幼・小・中・高の学びの円滑な接続を意識した取組(架け橋期カリキュラムの作成・実施・改善、異なる校種間での対話の機会等)を行っている。	/	3.4	2.9	/	3.5	3.3
	⑥	自己マネジメント力の育成に向け、基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立や充実のための取組を行っている。(ふくしまの家庭学習スタンダードを指針とする等)	/	3.4	3.1	/	3.5	3.3
	⑦	教科等の目標や内容を見通し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等求められる資質・能力の育成のために、教科等横断的な学習を充実している。	/	3.0	2.9	/	3.3	3.0
成果と課題	<p>※ 詳細な分析は、学校教育課通信195号でお知らせしておりますので、ご覧ください。</p> <p>○ほとんどの質問で、小・中ともに評価が向上しました。特に、ふくしま学力調査、全国学力・学習状況調査の結果分析や授業改善の視点や授業周辺部の取組に関する共通理解といった項目で、高い評価が見られました。</p> <p>記述回答からも、各種調査結果分析を組織的な取組に反映して、授業を核とした学習指導の充実・改善が進んでいることを読み取ることができました。次年度も、児童生徒一人一人の資質・能力を育成する教育を推進していきましょう。</p> <p>▲次年度も、各種調査から得られる教育的データの分析や活用についての情報をお知らせしてまいります。各学校における課題改善に向けて、校内研修等で組織的な取組がなされるようお願いいたします。</p>							

2 生徒指導と道徳教育の充実 (数値目標3.5)			中間評価平均			最終評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校
(1) 安心して学べる環境づくり	①	不登校児童生徒を新たに出不さないように予防に努めるとともに、不登校児童生徒に対しては個別の支援計画を作成し、組織的に対応をしている。	/	3.3	3.2	/	3.4	3.4
	②	いじめの未然防止、見逃しゼロに向けた組織的な対応と児童生徒一人一人が主体となって活躍できる魅力的な学校・学級づくりに努めている。	/	3.6	3.3	/	3.6	3.7
	③	児童生徒のニーズに応じた心のケアのため、保護者やSC、SSW、関係機関と連携し組織的に対応している。	/	3.6	3.7	/	3.7	3.9
(2) 道徳教育の推進	④	重点的に指導する内容項目について家庭・地域と共有し、学校・家庭・地域と一体となった道徳教育を推進している。	/	3.0	2.7	/	3.1	3.0
成果と課題	<p>○保護者やSC、SSW、関係機関との連携について、1年間を通して高い評価となりました。日頃から組織的な対応を行うための校内体制整備が進められていることが読み取れます。次年度に向けてさらなる充実を目指し、校内体制やチェック体制の見直しを図りましょう。</p> <p>▲不登校児童生徒数は依然として増加が続いています。QUテストの分析や迅速な情報共有など、児童生徒理解に基づく組織的な対応が多くの学校で図られております。次年度も、新規の不登校を出不さない取組について、各学校の実態に即したものが再度見直しを図り、進学・進級時の環境変化に対応できるように、新年度に向けた準備をお願いいたします。</p>							

3 健康マネジメント能力の育成 (数値目標3.5)			中間評価平均			最終評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校
(1) 体力の向上と運動習慣の定着	①	【幼稚園】「幼児期運動指針」を踏まえ、主体的に体を動かす遊びを中心とした身体活動を生活全体の中で確保している。 【小・中学校】「ふくしまっ子児童期運動指針」(小)や「体力向上推進計画書」を踏まえながら、全職員で共通理解を図り、取組を行っている。	3.3	3.3	2.9	3.5	3.6	2.9
(2) 食育の推進	②	【幼稚園】園全体で組織的に食育に取り組んでいる。 【小・中学校】「食に関する指導の全体計画」に基づき、組織的に食育に取り組み、食育の授業を実践している。	3.4	3.6	3.3	3.5	3.8	3.6
(3) 健康の保持増進を図る保健教育	③	自分手帳を活用し、自分の健康状態を把握している。	/	3.2	3.1	/	3.4	3.2
成果と課題	<p>○すべての質問において、評価が下がった質問はありませんでした。自由記述では、幼稚園、小学校での成果として、体力向上や食育の推進のために、外部講師等を活用した取組が数多く取り上げられておりました。また、中学校においては、自分手帳の活用に関する記述が多く見られました。自分手帳については、今後も組織的、継続的に活用していきましょう。</p> <p>▲朝食摂取率や肥満傾向児出現率の改善に向けて、保護者との連携についての課題が自由記述に多く見られました。家庭や地域を巻き込みながら、健康課題の解決に向けた取組を学校全体で組織的、計画的に推進するようお願いいたします。</p>							

4 特別支援教育の充実（数値目標3.5）			中間評価平均			最終評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校
(1) 多様な学びの場の充実・整備の推進	①	校内(園内)における特別支援教育の充実を図るため、各種訪問や特別支援学校のセンター的機能等による支援を積極的に活用し、計画的に校内(園内)研修を行っている。	3.3	3.3	3.2	3.3	3.4	3.3
	②	幼児児童生徒が学習活動に参加し、互いに学び合う交流及び共同学習を目指し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用し、担当者間で指導目標や個に応じた支援、評価方法について担当者間で共通理解を図り、指導に取り組んでいる。	3.5	3.4	3.2	3.3	3.5	3.3
(2) 切れ目のない支援の充実	③	「個別の教育支援計画作成・活用啓発リーフレット」を活用して、計画の作成及び引継ぎ・活用の意義について保護者の理解を促し、本人・保護者の同意と参画に基づいた個別の教育支援計画の作成を進めている。	3.3	3.4	3.2	3.2	3.4	3.3
	④	幼児児童生徒にとって必要かつ適切な支援が切れ目なく提供されるよう、個別の教育支援計画の記載内容を定期的に評価・改善し、進級時や進学先に引き継いでいる。	3.5	3.4	3.2	3.5	3.6	3.4
成果と課題	○個別の教育支援計画に関する質問の評価は、全校種において昨年度よりも上昇しており、計画の作成や活用が進んでいることが読み取れます。							
	▲個別の教育支援計画の引継については、校種間で差が見られることから、学校間の引継が課題であることがうかがえます。特に、中学校から高等学校への引継が課題です。子ども達が切れ目なく必要な支援を受けながら学ぶことができるよう、計画の確実な引継をお願いいたします。							

5 学校教育を支える基盤の確立（数値目標3.5）			中間評価平均			最終評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校
(1) 教職員の服務・勤務の確立と適正な人事管理	①	教職員人事評価について、全教職員が理解し、適切に運用している。	3.7	3.6	3.7	3.8	3.8	3.9
	②	教職員組織を生かして働き方改革を推進し、職場環境の改善に努めている。	3.2	3.3	3.2	3.0	3.6	3.6
(2) 学校事故防止の徹底と不祥事の絶無	③	校内服務倫理委員会に、工夫改善を加え、効果的な取組としている。	/	3.5	3.3	/	3.6	3.8
	④	「信頼される学校づくりを職場の力で」を活用している。	/	3.6	3.6	/	3.8	3.7
(3) 地域と共にある学校づくりと関係機関との連携強化	⑤	地域住民・保護者が、学校(園)の経営方針について理解できるよう広報に努めている。	3.5	3.5	3.4	3.3	3.7	3.6
	⑥	学校評価を適切に行い、その結果を公表している。	3.7	3.4	3.4	3.8	3.9	3.8
	⑦	学校運営協議会等による学校、保護者、地域の連携促進に努めている。	3.5	3.8	3.4	3.6	3.8	3.7
成果と課題	○すべての評価が3.0を上回り、3.9といった非常に高い評価も見られます。次年度以降も、子どもたちと教職員の Well-being(一人一人の多様な幸せおよび社会全体の幸せ)の実現と、すべての教職員が真摯に教育に向き合い、誇りを持って働くことのできる職場を目指して、各園、各学校で取り組んでいきましょう。							

6 幼児教育の充実と幼小連携の推進（数値目標3.5）			中間評価平均			最終評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校
(1) 幼児の主体的な活動としての遊びの充実	①	幼児が身近な環境に主体的に関わり試行錯誤したり考えたりする遊びを展開している。また、遊びが連続・発展する環境構成や教師の関わりを工夫している。	3.5	/	/	3.5	/	/
(2) 幼小連携の取組の推進	②	架け橋期カリキュラム(小:スタートカリキュラム、幼:アプローチカリキュラム)を編成(1月は実施・改善)している。	2.9	3.2	/	3.0	3.4	/
	③	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解と、それを踏まえた指導を工夫している。 【幼稚園】小学校教師との意見交換や合同研究等の機会 【小学校】生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定等	3.2	3.3	/	3.4	3.5	/
	④	幼稚園、小学校間で、相互の教育の内容や方法に関して話し合う機会(計画)を設定している。※合同研修会だけでなく、就学時や入学時等の対話等を含む	3.2	3.5	/	3.5	3.6	/
成果と課題	○「①幼児の主体的な活動としての遊びの充実」について高い評価となりました。日々の保育の記録を基に、環境構成や教師の関わりを工夫、改善した結果が表れたものと考えます。また、遊びの充実を目指し、園内での研修の充実が図られています。さらなる保育の向上を目指して、職員間の情報共有と学び合う環境づくりをしていきましょう。							
▲幼小連携の推進に関して、「②架け橋期カリキュラムの編成や実施・改善」については、やや低い評価となりましたが、③④からは、幼稚園、小学校間で話し合う場面が設定され、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解が進んでいることが読み取れます。架け橋期カリキュラムについても幼稚園、小学校間で意見交換をする機会を設定し、相互理解のもとで、幼小連携を進めるようお願いいたします。								